

扱 い	テレビ・ラジオ・新聞 制限なし
--------	--------------------

記者発表資料

平成23年6月24日

普賢岳で土石流の発生を確認

平成23年6月22日に水無川上流の現地調査を行いました。調査を行った結果、今月の17～21日の梅雨前線による降雨で、水無川の上流において土石流の発生を確認したのでお知らせします。

なお、土石流は水無川上流の砂防施設で補足されていますので、土石流堆積土砂の周辺への影響はありません。現地調査結果は別添の資料の通りです。同じものを雲仙復興事務所のHPにも掲載しておりますので参考にしてください。

水無川赤松谷での平成23年6月20日(月)の土砂流出調査について：
<http://www.qsr.mlit.go.jp/unzen/shincyaku/20110624mudflow.pdf>

発表記者クラブ
・島原記者クラブ

問い合わせ先
国土交通省 九州地方整備局 雲仙復興事務所
(090)8839-2937(携帯)
調査課長 前田 昭浩 (内351)

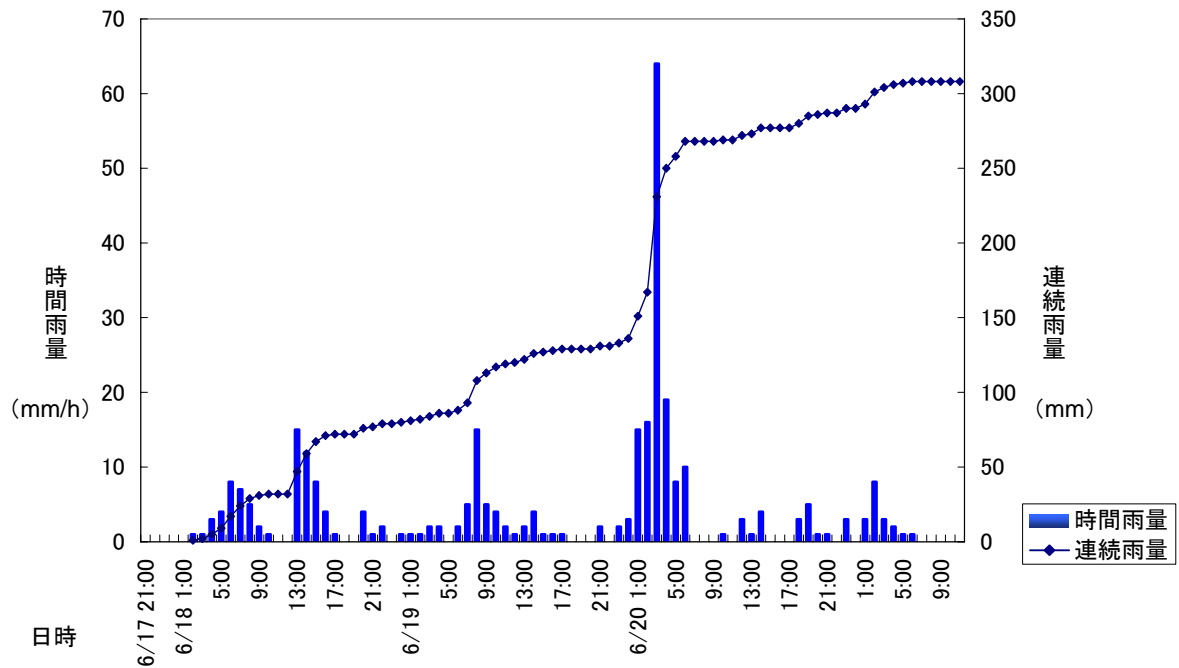
水無川赤松谷での平成23年6月20日（月）の土砂流出調査について

1. 降雨状況

平成23年6月17～21日の梅雨前線の影響により雲仙岳周辺の雨量観測所では表一に示すような降雨となった。雲仙岳測候所の降雨状況を図-1に示す。

表一 雲仙岳周辺の降雨データ

観測所名	雲仙測候所	仁田峠	雲仙復興事務所
最大時間雨量	64mm/h	65mm/h	41mm/h
(最大雨量観測時間)	(6月20日3時)	(6月20日3時)	(6月20日3時)
連続雨量	308mm	371mm	274mm
(連続雨量観測時間)	(6月18日1時～21日6時)	(6月17日21時～21日6時)	(6月18日3時～21日6時)



図一 6月17～21日の降雨状況（雲仙岳測候所）

2. 現地調査結果

6月21日、22日に水無川上流の赤松谷5号床固工から上流域のガリーの出口付近にかけて現地調査を行った。炭酸水谷の出口から下流から3つ目の谷止工（治山施設）付近の右岸にかけて先端に直径1から1.5mの巨礫が高さ約3mで集中して堆積している土石流ローブが確認された。このローブは事前の6月13日に行った現地調査時の状況から判断し、6月17日～21日の降雨で発生した土石流の堆積物と推測される。この堆積物の左岸には後続流により侵食されたと思われる流路が形成されている。（写真－1）

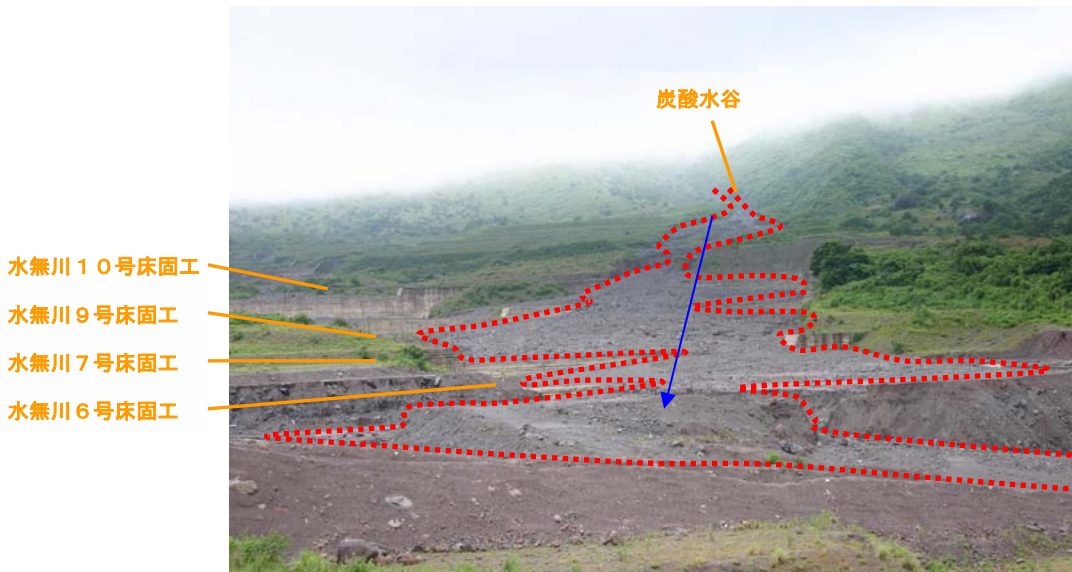
谷止工から下流に向かい土砂が連続的に堆積しており、現在工事中の赤松谷川5号床固工上流の転流工の付近までおおむね1～2mの高さで土砂が堆積し、また転流工のなかに土砂が堆積していた。（写真－2、写真－3）



写真－1 赤松谷の上流の土石流ローブ



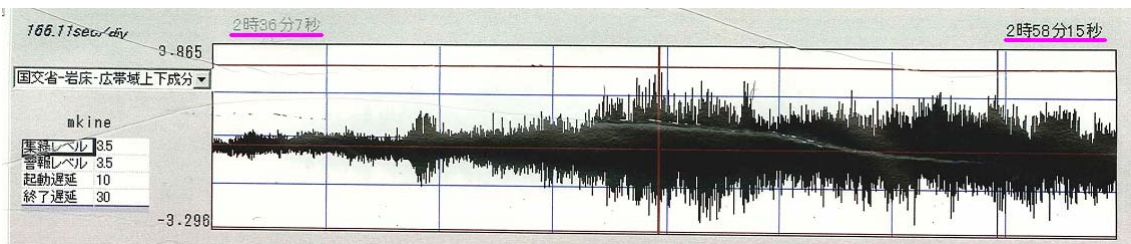
写真－2 赤松谷川床固工群周辺の土砂堆積状況



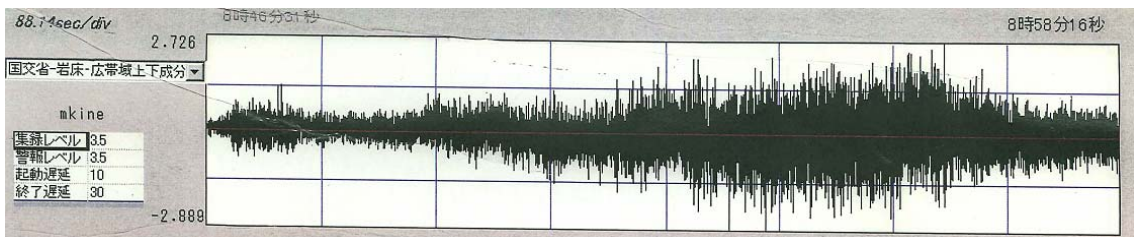
写真－3 赤松谷川9号床固工付近の土砂の堆積状況

3. 震動センサーのデータについて

図－2に岩床山に設置している震動センサーの6月20日データを示した。土石流が流下するときの震動センサーの波形は数分から数十分の比較的長い時間、幅広い震幅で計測されるのが特徴である。図－3に示した平成22年6月30日に土石流発生時に記録された岩床山の震動センサーのデータと比較しても類似の波形を示しており、最大時間雨量を記録した時刻である6月20日2時36分頃に土石流が発生し流下したことが推測される。



図－2 岩床山振動センサーの計測データ（平成23年6月20日午前2時36～58分）



図－3 岩床山振動センサーの計測データ（平成22年6月30日午前8時46～58分）

4. 土石流等の堆積土砂量

土石流等により堆積している土砂量を現地調査から推定すると、約7万 m³の土砂が堆積したと思われる。



現地調査実施者（雲仙復興事務所砂防課：大内田聖和、堀ノ内義博、同調査・品質確保課：前田昭浩、戸高智範、荒金恵太）